



松蔭 校長室だより

2021年11月1日 発行

一校長から保護者の皆様へのメッセージですー

松蔭中学校・松蔭高等学校

校長 浅井宣光

“The owl is a traditional symbol of wisdom. Wisdom is a virtue and a disposition of character, equipping a person for life. It is the ability to think and act using knowledge, experience, understanding, common sense, and insight. (ふくろうは古くから知恵の象徴である。知恵とは、その人に生涯を通じて備わる美德と本質のあらわれである。それは、知識と経験、相互理解と良識、洞察力にもとづき思考、行動する能力のことである)”

(「校章のフクロウについて」姉妹校ニュージーランド St.Peters 校 HP より)

鳴き声は「のりつけほうせい」 フクロウ (梟) のはなし

「夜中に『のりつけほうせい』と鳴いていた。」子供の頃、祖母から聞いた記憶があります。英語の授業で、ニワトリは「カッカドウドウドウ」、豚は「オインクオインク」と知り、奇妙なものだと思いましたが、フクロウの鳴き声は、いくら耳をそばだてても「ホーツ、ホーツ」としか聞こえません。調べてみると、晴天の夜によく鳴いて、翌日は洗濯日和になるので、着物に「糊(のり)つけて干(ほ)せ」と鳴いて教えてくれている、という説がありました。静かに木にとまり、大きな目で周囲を見回したり、首をかしげたりする姿は、森の賢者が深い思索のなかにあるような佇まいです。古代ローマ神話に登場するミネルヴァは、知恵や学問をつかさどる女神でしたが、いつもその肩にフクロウがとまっていたことから、フクロウも知恵や学問の象徴とされるようになりました。かつて、学習塾の経営者に「ふくろう博士」を名乗る方がいましたが、納得できるどころです。

現在、HAT 神戸にある兵庫県立美術館では「ハリー・ポッターと魔法の歴史」展が開催されています。映画では、主人公ハリーが11歳の誕生日にシロフクロウをプレゼントしてもらい、ヘドウィグと名付けました。以来、魔法界に足を踏み入れたハリーの大切な友人として、また、手紙を届ける配達人の役割を引き受けました。「ピューツ、ピューツ」と甲高く響き渡る鳴き声は、もちろん「のりつけほうせい」とは聞こえません。

学校のすぐ南にある王子動物園は、3羽のシロフクロウを飼育していますが、本校が動物サポーターとなって特別に応援しています。光沢のある真っ白な羽を身にまとうオスのラマルクと、体全体こげ茶色の斑点模様があるメスのソナ、ホッピーが、いつも静かに目だけを動かしています。園舎の前には学校名の掲示板も立っています。

本校がシロフクロウの動物サポーターだと知った方から「松蔭の夏服のイメージがあるから、この動物を選んだのですか？」と尋ねられることがあります。確かに凛とした立ち姿は夏の松蔭生を彷彿とさ



<王子動物園のシロフクロウ (公式HPより)>

せます。清潔で明るい夏服のイメージに加え、白色は、キリスト教では「清らかさ」や「喜び」を意味するそうですから、朗らかな松蔭生の姿とも一致しています。

ニュージーランドの姉妹校、St.Peters 校の校章はフクロウをデザインしたものです。学校を紹介する冊子にも“The owl spreads its wings. (フクロウは羽を広げて)”と記されています。冒頭にあるように、ホームページで校章の由来を読み、学校にとってフクロウが意味するところが理解できました。日々の学校生活を通じ、知識と経験を積み重ね、思考し、行動する知恵と勇気を自らに備えること。育成したい

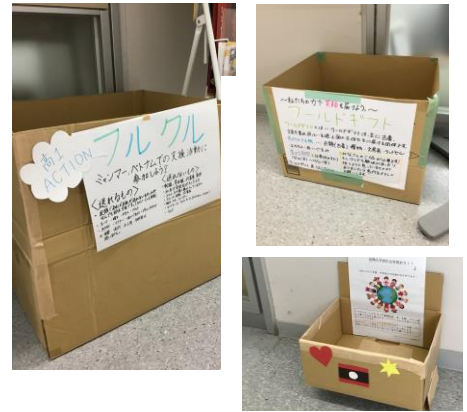
生徒像は本校も同じです。余談ですが、併設の神戸松蔭女子学院大学がサポートする動物はレッサーパンダ。動物園をお訪ねの機会があれば、ぜひご観覧ください。



<姉妹校のフクロウの校章>

11月20日「奉仕活動の日」 ボランティア活動が持つ教育力

奉仕体験やボランティア活動を、学校の正課の教育活動に位置付けたプログラムについては、欧米圏の大学ではすでに「コミュニティサービス」や「スタディーサービス」の授業があります。海外からの帰国生によると、各国のインターナショナルスクールでは、ボランティア活動を必修化している場合が多いという話を聞きます。日本は大きく後れを取っているようです。近年、国内でもようやく「サービスラーニング」のプログラムを導入する大学が増えてきました。サービスは「奉仕」、ラーニングは「学習」ですから、学習と奉仕をセットにして、教室での学びを学外の活動体験に生かし、気づきを得るという教育手法です。一例をあげると、本校からの推薦枠がある国際基督教大学（ICU）では、「サービスラーニング」のプログラムとして、学内での準備学習を経たうえで、国内の「コミュニティサービスラーニング」と、海外の「国際サービスラーニング」の両方に取り組みます。まさにグローバルな規模での奉仕活動です。事後の振り返り学習を含めた一連の活動により「生涯にわたって他者と世界平和のために、批判的に考え行動するための経験的学修を行う」（大学HP）としています。



<廊下に置かれた古着回収ボックス（高1活動）>

11月に入ると、本校では例年ならばバザーの準備で大わらわですが、今年はバザーの日を「奉仕活動の日」「School Campaign」としてクラスや学年単位で社会に奉仕する手段を考え、行動する1日としました。バザーの場合、収益の全額を寄付して社会貢献することで「奉仕の精神」を実践しますが、今年は、「何をするか?」「何ができるか?」から考え、学校を起点とする「奉仕活動」「ボランティア活動」により、新しい形の学びや気づきを得ることを目標としています。それぞれの取組みの教育力を期待したいと思います。中学では、学校周辺の清掃活動やSDGs関連の取組み、医療従事者の方々などへのメッセージ作成、環境啓発活動の取組みなど。高校では、古着回収による途上国援助や国際貢献活動、フードバンクへの支援活動を計画しています。

兵庫県の公立中学校は中学2年生を対象に「トライやるウィーク」という地域、職場体験プログラムを実施しています。中学時代の就労体験は、キャリア教育や社会教育の一環として重要なことは言うまでもありませんが、自発的行動を原理とする社会奉仕やボランティアとは一線を画しているように思います。今回の本校の活動では、タイトルをあえて”School Campaign (スクールキャンペーン=学校の運動、取組み)”のみにしています。活動の幅を広げて多様に活動するためです。“School Campaign of neighborhood cleanup(近隣地域の清掃)” “School Campaign for international contribution(国際貢献)” “School Campaign of thanks for caregivers(医療従事者へ感謝)” “など、自分たちのアイデアをもとにして出来ることに、出来る範囲で取り組みます。先生方とは、「初めてのプログラム。たとえ上手くいかなかったとしても、今回は『よし』としましょう」と話しています。今年度の学校運営の目標のひとつに「『個』の自立と、自発的行動がある学級、学校づくり」（「校長室だより 2021年4月8日号」）を定めています。一歩でも近づきたいものです。

11月の行事予定

校内での主な行事の予定です。詳細は、各学年からの連絡でご確認ください。

- 11月 1日（月）中3実力テスト
- 11月 5日（金）兵庫県津波一斉避難訓練緊急速報メール（エリアメール）配信（午前10時）
- 11月 6日（土）関西大学オープンキャンパスツアー（高1希望者）
- 11月 7日（日）高3松蔭特薦入試（併設大内部進学試験）
- 11月10日（水）宗教週間特別礼拝 中学⑤校時、高校⑥校時
- 11月12日（金）お誕生日礼拝（昼休み）

- 11月13日(土) 逝去者記念礼拝(放課後)
- 11月14日(日) 中学入試プレテスト
- 11月15日(月) 中学GS校外研修
- 11月17日(水) PTA生活委員会講演会
- 11月20日(土) 「奉仕活動の日」(SHOIN School Campaign) 8:45朝礼 12:00閉会礼拝
*高3自宅学習日
- 11月22日(月) 避難訓練(昼休み。大地震想定) HI総合探究「映画鑑賞」
- 11月23日(祝) 高1・2 Blue Earth Project「生物多様性啓発イベント」(神戸どうぶつ王国)
- 11月26日(金) 40分授業 高1/高2/中3対象 進路講演会「大学の学びとは」(予定)
PTA文化委員会(手作り品)
- 11月27日(土) 中学入試プレテストアドバイス会
- 11月30日(火) PTA文化委員会(手作り品)